

良きふりかへり

—親しき友におくる—

中村 楠雄

(一)

本當に長い間御無沙汰致しました。夏休みの終頃御たより申上げてから、ずっと其のまゝになつてゐたのかと考へて居ります。

あれからも度々お伺ひ致したいと存じながらも何せよ本當に文字通り多忙な日々を送つてゐたのですから、ついでに御無沙汰致してしまひました。

益々御健康でいらつしやる事を察し申上げて居ります。個人の問題についても色々申上げたいと思ふ事もございますが、今度はすつかり省略させて貰ひます。

それよりも昨年九月以降の私共の幼稚園の様子をあれこれと申上げる方が、引き續き私が元氣で暮した事をよりよく知つて頂けませうし、又一層御興味も深く讀んで頂けやうかと存じます。

(二)

九月から十二月まで、つまり第二學期間の私共の生活を、一口に申しますなら本當に嬉しい生活であつたと云ふ事でありませう。

前學期にも申上げました通り、私共の仕事は小さいながらも着々と進んで参りまして、日に月によりなく、より満足な方面へと向つて來たのではございますが、この二學期程愉快な生活をした事

も近頃はない事でありました。

どの先生もどの先生も、それは／＼緊張してくれました。明るい氣分で元氣に快活に振舞つて下さいました。お互に助け合ひ進め合ひ所謂涙ぐましいまで美しい人情味があふれた生活をして下さいました。

朝なんかでもとても早いのです。いつも殿りをつとめて出勤するのは私でした。

夕も亦大變おつめになります。自由に何時にても放課後は歸られる定めてあり、名札さへ裏返しをけば私へ挨拶などして下さらなくつても結構ですからと申上げてゐますのに、しつぽりとそしてまめ／＼しく仕事をしてゐて下さいます。だから遅出の早びけは私だけのやうな事で、何にせよ先生方にすまぬ／＼と思ひながら、一朝も先生方に先んずる事も出来なくて、二學期をすごしてしまひました。

(三)

それだのにどなたも私をとがめる事もなくて、美しくやさしく許して下さいつて、否々むしろそんな事は全く氣にもとめず、只々自分の仕事に一生懸命にいそしんで下さいました。

或時には

「皆さんは私へ氣兼ねして、そんなに晩くまでつめて下さるのですか。さうでしたら私がかへつて遠慮が出来て、少しつめて仕事をしたいと思ふ時にも、早く切りあげねばならなくなり、どうも不自由で困りますから——どうぞ定めを通り、御用のすんだ方からサツサとお歸り下さいませ」
とも申して見ました。

さうすると

「イ、エ先生、私共は勝手でございます。用事のある時には何時からでも歸らせて頂きますから、どうぞ先生にも御自由に」

と云ふ御言葉です。

こんな事を言はれますと全く困つてしまひます。只々感謝です。何かしら熱いものがグット上の方へこみ上げて来るやうな氣持になります。

また或時には

「ねえAさん、わたし昨日七時までかゝつて仕上げてしまつたの」

「さう大變ね、でもよかつたわね」

「わたしね、うちへ晩くなるからつて言つてなかつたのよ、お母さんにしかられるかと思つて、心配しながら歸つたの」

とか

「うちの××子ね、わたしの歸りがおそいものだから電車通りまで三べんも見に來たのですつて」

「それは御無理ありませんわ。まあいぢらしいこと」「わたし今朝はとても早かつたのよ」

「アラッ、どうして」

「今日あたしの組で〇〇遊びを致しますの、其の

準備が昨日どうしても出來上らなかつたものから、今日は△時から來ましたの」

「まあ、そして出來てしまつて」

「今やつとよ」

「そんなになさらなくても、あたし手傳つてあげますのに」

そんな問答を別室で聞くともなしに聞く時にはすまないやら有難いやら——大勢の父母と子供に代つて、ソツと其のお話の方へ頭を下げる事もあります。

一々の父兄へ、この涙ぐましい一生懸命な先生の努力を傳へて、心からな感謝を差上げたいと思ひます。

或時には職員會の席上で、或時には個人的に「朝早く、夕もつめて、一生懸命仕事をして下さると云ふ事は、幼稚園のために、また子供の爲め

にどれ程幸福な事であるか分りません。けれども私共は自分の健康と云ふ事、家庭をととのへる事自身の子供の事、何れも考へねばならぬ大切な問題であります。これらをよくする事も國家への大きな奉仕なのですから、そこはよく考へて程よくお仕事をして頂きたい」とも申上げたのであります。

(四)

ここまで申上げて参りますと、私共の幼稚園で生活ぶりが大方分つて頂けただらうと存じます。全く私共は自分の仕事に生活に没頭してゐます。面白くて、愉快で、皆がいそ／＼としてゐます。

この精神的に、肉體的に非常な努力をしてゐて下さる先生方に對して、誠にうすい御もてなししか出來てゐない事を考へますと、相すまんと申し

ませうか、いやもう何とも申上げやうもない始末です。これは全く私の力の足らない結果でありまして、汗顔此上もありません。

物質的な待遇と仕事をテンピンにかけてゐるやうな事では、本當の仕事は出來ない、と申せば全く其の通りとも申せませうが、それにしても只今の状態では餘りに申譯のない事だと考へて居ります。

それで先生方にお仕事もして頂くと共に、追々各方面の了解も得て、此の方面もぼつ／＼向上させねばと、色々心を碎いて居ります。

けれども幸ひな事には、前にも申上げました様に、先生方には全く物質的方面は眼中になく、只々仕事其のものを樂しんでゐて下さいますので、私もどうかこうにか、横着にも日々を過させて貰つてゐる様な次第であります。

(五)

さて今までは私共の二学期の生活の大體の輪廓を申上げたのでございますが、それではこれから少しく具體的に記して見る事に致します。

まづ保育細目を拵上げた事を申し上げます。保育細目と云ふ様な文字は、幼稚園にとつて應はしいかどうかと云ふ問題はまあしばらくをくとしまして、兎に角私の所は保育細目と云ふ名にしてしまひました。『保育細目つて何です』と云ふを尋ねもあるか分りませんが、まあ小學校の教授細目のやうなものと考へ下すつても差支ありません。

小學校では各科目別に細目を作りませんが、私の所でも各保育項目別に作つて見ました。

そこで又保育項目の事を申上げねばなりません。が、今度の新令で、談話、手技、唱歌、遊戯、觀察の五つを文字の上ではつきりと、幼稚園の保育項目として擧げてゐるのであります。しかしそれは何も五項目に限る必要はないので、吾々幼兒教

育者を信頼して、時勢の進運に伴ひ幼時教育上必要なりと思ふ事は、審重考慮の上なら、直ちに實施してもよい事になつて居る様であります。

しかし私共の所では、今回は前に擧げました五項目だけに限りました。

どうして作つて行つたかと申しますと、まづ各項目についての研究主任が、自分の項目に關する細目を立案致しました。それから其の主任と私とが度々打合せを致しまして完成したのであります。

愈々原稿が出来てしまつてから、謄寫版で各細目とも二十部づゝ印刷致しました。これを只今私共は實施して研究を進めて行きますと共に、關係方面へ其の印刷したものを送付して批評を頂きつつあります。

私共自身考へて見ましても、横の連絡をもつと十分にせねばならぬ事を始めとして、様々な事を

氣づきます。

この細目の印刷したものを、ほしいと言つて下さる所も、随分あるのですが、まだ一改めなければと思ひますのと、たゞの二十部しか拵へませんでしたので、もう餘分がありませんので、實はお断りしてゐるやうな始末であります。

兎に角まづいながらも、私共の力で拵へあげましたものなんですから、私共は可愛がり／＼ながら、毎日これを繰りひろげては仕事を致して居ります。

そこへ過日市の學務課長が當園へこられた時に是非出版するやうにしてはと申されるのです。さう言つて下されば、叱られたのと違つて、先生方も中々晴々しいお顔つきをなさつてゐます。

「それじゃ一つ出版するやうに致しませうか」と私が申し出しますと、さすが先生方も

「まあお待ち下さい。世間へ公に出すと云ふ事に

なれば、私共もつと研究してからでなくては」と申されます。

誠に其の通りであると存じますので、これは其のまゝになつて居りますが、東京の友人も不取敢原稿を送つて来る様にも申し来てゐますし、萬一出版でもする様な事がありましたら、必らず一部御送り申上げます。

さうです、三百頁位のものにはなるでせう。しかし賣れ行く範圍がせまいてせうから、本屋も引き合はない事と考へますから、恐らく出版はむづかしいでせう。でも犠牲的に若し出版でもして下さつたら、少しは幼稚園の先生方に御參考にして頂けませうかと考へては居ります。それから幼稚園に保育細目の必要があるか、どうか、と云ふ問題も起りますが、私共は只今の幼稚園の制度の上から、組織の上から考へても、どうしても必要のある事と考へまして、これを作つたのであります。

けれどもさうした議論を書き並べるのは、此の手紙の本旨でもございませぬから、これて省略致します。

この細目に着手したのは第一學期でありましたが、出來上つたのは十月の中頃であつたかと存じます。

實際細目を拵へやうじやありませんか、と申し出したのは私ですけれども、愈々手をつけてからと云ふものは、かへつて先生方の元氣がすばらしくて、今日は談話の研究會へ、今日は手技の研究會へ、と云ふ風に、私しがひつぱり廻されどうして言ひ出した手前、後へもひかれず、内心一寸弱つたやうな次第でありました。

(六六)

それから昨年十二月十三日、大阪朝日新聞の紀伊版に随分大形の寫真と、中々記事も澤山勉強してのせてゐましたから、多分御覽下さつた事と

存じますが、愈々十二月から三月まで、つまり寒い間だけ、幼稚園で御中食をたいてたべさせる事に致しました。

何様貳百六拾人と云ふ大家内の炊事であり、特別の食堂もなく、設備も十分でないと言ふ有様でありますから、先生や使丁の勞力を要することもとても甚だしいのであります。

それでも父兄からの感謝の言葉を——涙の流れるやうな感謝の言葉を——或は口答で、或は御手紙で、或は申込書の添書で多數に拜見して、私共は元氣百倍致しました或時先生はこう申しました。

「こんなに喜んで頂けるのでしたら、わたし達の骨折り位何でもありませんわ、本當に仕事の仕がひがあつて嬉しうございます」……と。

其後父兄の方々の好意で、設備もまづ當座の事を缺かぬやうに出來上りました。

何しろ子供も暖かい御飯が頂かれると云ふのでそれは／＼大喜びであります。

それからおかしいのですよ、今までは御辨當入れに一つしか頂かなかつたのでせう。それに其の同じ器で（御辨當入れを御茶碗の代用にしてゐます）四つも五つもいたゞく子供があります。よくもまあそんなに頂いたものだとあつけにとられま

す。

後の二つ位は副食物なして頂きます。「お、かづがなくてもよいの」と申しますと、

「幼稚園の御飯はおいしいから」

と答へます。

でもそんなにむやみに食べさせてはいけないだらうと云ふので、今では子供々々によつて多少加減をしてやつて居ります。

また中には

「おばあさん、お、かづを少しにして頂戴、なつて、幼稚園の御飯おいしいから、お、かづ少しいの」

と云ふ子供もあるさうです。

また幼稚園で御飯を十分に頂いてくるので、お内て間食を餘りせぬやうになつたと、喜んでくる向もあるやうです。

何々にせよ、この企ては大變よい結果をもたらしてゐるやうであります。

ところが又これを實行するに至りました動機が甚だ嬉しいのであります。それは全く先生方の子供を思ふ餘りの自發に出てゐることです。

私共の幼稚園では、毎年冬になるとお辨當ぬくめを用ひて參りました。所が其の結果は餘り面白くございませんので、何とかよい方法があるまいか、と云ふ事は長い間私共の宿題でございました。けれどもこれだと云ふ名案も浮びません。かねて

岡山の女子師範の幼稚園で、こう云ふ事を實行してゐられると承つてゐましたので、實は昨年度私共もやつて見たら、と話し合つた事もありましたが、色々の都合で決心がつきかねて、其のまゝになつて居りました。所が昨年の十一月に、また今年の御辨當ぬくめをどうするかと云ふ事について、ぼつ／＼皆んなが頭をつかひ始めた頃、丁度岡山女子師範の岡さんが私共の方を見に来て下さいました。

其の時岡さんから色々お話しを承つたわけでございます。其の頃からもう皆んなが、愈々實行しませうと云ふ決心が出来て居つた様であります。後に職員會のありました時、ふと話しが子供の中食問題に觸れました時、

「今年から先生、内でも御中食を幼稚園でたいてやりませう」

「え、それがいゝわ」

「きつと喜ぶことよ」

と云ふ様な先生方の御意見であります。

そこで私はも一度

「所で皆さん、内の子供は二百六十人もありますよ。百人以内とは違つて、お米も一日に二斗以上もたかねばなるまいし、それを何回にもたいてゐてはさめるであらうし、三回にたくとしまして一回に随分澤山たかねばなりませんから、従つてお鍋も中々大きなのが入用になつて來ませう。そんな大きなお鍋でたくの中々大變じやありませんか。それはそれとしまして、二斗からのお米を冬洗ひますのも随分つめたいじやありませんか。しかも毎日の事なんですよ。どうでせう。それでもやつて下さいませうか」

と念を押して見ました。

が結局、先生方の非常な元氣で、愈々實行する事に決定致しました、けれども考へて見ると炊事

場をつくる事、竈をきづくこと、お櫃を買ふ事、お鍋を買ふ事、柴屋を工夫すること……等々、中々澤山のお金が入りさうであります。其の金をどうするかと云ふ事は少々心がかりでありましたが、先生方があんなに元氣に言つて下さるのに、エ、まゝよ、どうにかなるだらうと、全く先生方にひつばられて、私も決心してしまひました。

こうして實行に入つたのでありましたが、前にも申しあげました通り、父兄方の大變な後援によつて、兎も角も現在の様な設備も出来ました。そして皆んなの非常な喜びの中に、日々を過してゐるやうな次第であります。

其の中こちらへでもお出になりましたら、是非々々御立寄り下さいませ。子供といつしよに御飯でも召し上つて頂きます。

(七)

いつてしたか私共の幼稚園のお式の事について

簡單にお話し申上げた事があるように存じますが、今度は特に今年のお正月のお式の事について申上げて見ます。お正月のお式の事と云ふよりも御式の準備と申上げた方がよろしいのでございます。

お式の時には、いつでも何かお土産を子供に與へる事に致して居ります。どんな物を與へますかと申しますと、おさまりのお饅頭の他に、小學校で申します手工的製作品であります。それは先生ですつかり拵へてやる事もあり、先生と子供との共同作品である事もあり、全く子供の作品である事もあります。

今年はどうな物をお土産にするかと云ふので、色々皆考へて見たのですけれども、とうとう自動車にするかと云ふ事にさまりました。さて自動車を拵へ様と云ふ段になつて、一寸小さな行きつまりに出會ひました。と申しますのは、おかしな話ですが、私共の記憶は案外不明瞭だと云ふ事であ

ります。あの見馴れた自動車でさへ、さてとなる
と其の恰好なり、諸部分の構造なりについて實に
不確實な知識しかありません。それでとう／＼主
任の方々にお願ひして、自動車をよ／＼見てそれ
から一つの模型をつくつて頂く事になりました。
所が後で主任の方のお話しに、紙の裁方なり、曲
げる角度なり、一々中々の工夫を要したと云ふ事
でありました。

それで此の自動車(ボール紙製)は全く私共幼稚
園の創作品であります。この玩具の自動車一つで
も何ら他からの力をからずに、私共の考のみで生
み出したと云ふ事は、言ひ知れぬ愉快を覺えま
す。

しかし特に私が先生方に感謝致したのは、
其の製作に對する非常な熱心と、大變な努力とで
あります。實は豫想では一寸で出來ると割合簡單
に考へてゐましたのです。所が實際は中々手のこ

んだものになりましたので、容易に仕事が運びま
せん。勿論今度は子供に殆どさせられませんが。そ
れて先生方は冬期休業前から冬期休業の前半へか
けて、一般の仕事をすましては、この製作に没頭
されました。時には夜の九時までも幼稚園で仕事
をせられ、家に歸れば十時にもなつてゐる事があ
つたやうです。殊にかねてから各自計畫もあつた
であらう冬の休みを惜氣もなく、不平や不滿の片
鱗だになく、それこそ美しく割愛されて、自ら選
んだ仕事を果さんとする責任感と、子供を愛し幼
稚園の名譽を思ふ至情とが、ゆかしくも美しくか
らみ合つて、そしてこの自動車の製作品が、満足
に且つ十分に出來上りました。

一月一日のお式に參りました子供達に、これを
與へました時の喜びやうは、どんなであつたとお
思ひになりますか。それは／＼非常なものであり
ました。子供達が歸つてしまつてから、

「先生、もうそれは大變な喜びでございました」
 「あんなに喜んでくれたら、骨折がひがあつたわ」と云ふ様な言葉が、非常な満足の表情と共に、先生方の口からもられました。

私共はそれだけでよかつたのであります。其の時其の他に何の報ひも望むてはゐませんでした。

所が其の日も出て下すつた來賓の方々から、思ひがけなくも先生方の努力が認められ、何くれとおほめの言葉も頂戴致しましたので、私共誰も表面上には、隠しきれぬ歡喜の光がありました。また其の時其の機會を利用して、平素の先生方の努力の幾分を説明する事の出來た私にも、人知れぬ喜びがありました。

今一つつけ加へたいのは、二重橋の大額面をつくつた事でありませす。そしてそれを一月一日に始めてかけて、遙拜を致した事でありませす。それから以來毎朝私共は此の前に集まりまして、身も心

も正しく遙拜致します。其の時のすがすがしい氣持ち——それは例様もなく心地よいものであります。有難いものであります。私共のこの態度を、そばで見て下さる人には、一種感銘をして頂けると自信致して居ります。

こうして皇室を尊び、國を愛する心の素地をちかふ仕事の一つと致したいと存じます。幼児時代特有な宗教心の萌芽を育て、行く仕事の一つと致したいと存じます。

幼児教育と宗教教育の問題について、少し書いて見たいとも存じますが、これは日を更めて申し上げ、御批正を願ふ事に致します。

さてこの二重橋の大額面(一疊大)は誰れがかいたかと云ふこととあります。決して澤山のお金を出して、専門の畫家に依頼して出來たものではありません。全く私共の手になつたのであります。それはこの休中に手技の方の主副の研究主任の方

が協力して、一生懸命になつて描き上げたものなのであります。私からこう申してはおかしうございますが、實際中々うまく出来てゐるのであります。

「私共のかいた此のつたないものの方へ、禮拜して頂いて、本當に恐縮です」

と、かゝれた先生は申して居ります。

けれども第一私共の其の繪に對する親しみが違ひます。自分達がかいたのだと思へば何だか嬉しいです。殊に子供は喜びました。

しかし私の感謝致しますのは、繪の出来ばへとか、子供が喜んだ等よりも、先生の其の尊い犠牲的奉仕の精神であります。それがいや／＼ながらやるとか、義務的に仕方なしにやるとか云ふのではなくて、幼稚園のために働く、子供の爲めに働くと云ふ愉快な感情、美しい精神から出發して出来上つたものであります。其處には何の求める

所とてなく、只よい事をしたいと云ふ一つばいの心で爲されたのであります。それだけに其の仕事がありがたくて、私には涙がこぼれる思ひがするのであります。

(八)

二學期中頃から遊戯の研究發表と云ふ事を始めました。一ヶ月に一人づゝ研究發表し、それを皆が批評して、一つのよい遊戯を拵へて行くのであります。お遊戯についても、古いものと、あんなものもうずっと前に流行したものよ、と言つてしまいたがる傾向はないか、又講習などで教はつたものでないと不安で、自ら子供の爲めによいものを生んでやると云ふ努力が一般に乏しいのではないか、などと考へて居りますが、そこで口廣い申し様でございますけれども、この擧もこゝうした態度にあきたらない私共の、一つの小さな實行であります。

古人も「古きをたづねて新しきを知る」と申して居られますが、古いものの中にも實に捨てがたいのがあります。そんなのを見つけ出すのも仕事の一つです。又それらを改作するのも一つです。それらからよいヒントを得るのも一つです。

講習!! 新らしいもの!! のみを追つてゐる人には種切れがあるかも知りません。

けれども古きもの敢てしりぞけず、新らしきもむやみに追はず、眞に子供によいものを知り握つてゐる人にはさう云ふ事はないと思はれます。それで講習で習つたものでも此の研究発表會の飾にかけたものを用ひる様にして行くつもりでございます。

各種の遊戯書をあさつて、講習などで手をとつて教へて貰はないものゝ中から、よいものを發見して行くのも一つの仕事であります。

けれども一番大切な仕事は、全く私共の力で、

本當によい遊戯を創作する事だと考へて居ります。

兎に角私共はこうした精進をつゞけて參るつもりでございます。やがて或は面白いものがまめられるかも知りません。其の時にまた御高評をお願い致し度う存じます。

(九)

つまらぬ事を長々と書きつゞけて參りました。一まづこの邊で擱筆致します。今年は人氣辰の年とか世間で申して居りますが、私共も更らに勇氣ふるい辰の年と覺悟致しまして、一層よい仕事をしたいものだと思へて居ります。どうか今年も相變りませず御援助を賜り度、切に御願ひ申上ります。

(昭和三、一、二五)